

あ  
翔

あめつちほしそらやまかはみねたに  
くもきりむろこけひといぬうへすゑ  
アメツチホシソラヤマカハミネタニ  
クモキリムロコケヒトイヌウヘスヱ  
天地星空山川峰谷雲霧室苔人犬上末  
安以宇衣於加幾久計己左之寸世曾太  
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz0123456789,.!?\*

或曇つた冬の日暮である。私は横須賀発上り一等密車の隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待っていた。とうに電燈のついた客車の中には、珍らしく私の外に一人も乗客はないなかつた。外を覗くと、うす暗いプラットフォームにも、今日は珍しく見送りの人影さえ跡を絶つて、唯、檻に入れられた小犬が一匹、時々悲しそ

—  
16Q / 24H

或曇つた冬の日暮である。私は横須賀発上り一等密車の隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待っていた。とうに電燈のついた客車の中には、珍らしく私の外に一人も乗客はないなかつた。外を覗くと、うす暗いプラットフォームにも、今日は珍しく見送りの人影さえ跡を絶つて、唯、檻に入れられた小犬が一匹、時々悲しそ

—  
22Q / 30H

或曇つた冬の日暮である。私は横須賀発上り一等密車の隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待つて、

—  
36Q / 48H

或曇つた冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待っていた。とうに電燈のついた客車の中には、珍らしく私の外に一人も乗客はないなかつた。外を覗くと、うす暗いプラットフォームにも、今日は珍しく見送りの人影さえ跡を絶つて、唯、檻に入れられた小犬が一匹、時々悲しそ

或曇つた冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待つていた。と

—  
20Q / 28H

或曇つた冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待つていた。とうに電燈のついた客車の中には、珍らしく私の外に一人も乗客はないなかつた。外を覗くと、うす暗いプラットフォームにも、今日は珍しく見送りの人影さえ跡を絶つて、唯、檻に入れられた小犬が一匹、時々悲しそ